



活動を支える、人、モノ、こと「募集して」

路上生活者のために今できることをしよう

NPO法人仙台夜まわりグループは、2000年1月から路上生活者や生活困窮者のための炊き出し、支援物資の配布など様々な活動をしています。夜間には街を見回り、路上生活者の安否確認にも取り組んでいます。寒さが厳しい仙台の冬は氷点下になる日も珍しくなく、路上生活者にとって最悪の事態を引き起こしかねません。そのため、役所や病院などが休みになる年末年始には、食料配布や相談会を強化。路上生活者が冬を乗り越えることができるように、より多くの支援物資を募っています。「誰かの手助けをしたい」「自分にできることはないか」というあなたの想いが、命をつなぐ架け橋になります。



▲支援物資を配布している様子

募集している物資

食 料 : カップ麺、個包装のお菓子(エネルギーの素となるようなチョコレート、飴、一口羊羹など)、おかず缶詰、レトルトカレー、一口味噌汁等、カレールー

日 用 品 : 使い捨てカイロ、マスク、ポケットティッシュ、タオル、携帯ラジオ、電池、寝袋(クリーニング済み)

衣類関係 : 靴下(未使用)、下着(未使用)、冬物男性衣類

そ の 他 : テレホンカード、クオカード、商品券、大きめの紙袋

NPO法人仙台夜まわりグループ

TEL 050-1720-9432



HP▶



活動に役立つ書籍を紹介「お役立ち本」

しんがりの思想 反リーダーシップ論

本書は哲学者によるリーダーシップ論です。特に、市民による自発的な社会課題の解決に取り組む現場のリーダーには、「しんがり」のような心構えを持つことが重要と説いています。しんがりは、列の後方で全体を見渡し、経験をもとに必要な判断をする役割です。しんがりの役割は、誰もが担えるよう準備することも重要だとし、そのようなフォロワーシップの精神が市民社会の成熟につながることを気づかせてくれる一冊です。

『しんがりの思想 反リーダーシップ論』
鷺田 清一 KADOKAWA／角川新書



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。
「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 12月10日(水)、24日(水)
年末年始の休館日 12月29日(月)～1月3日(土)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ぱれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者：特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2025年12月1日

デザイン PEACE Inc.

[X]

@SCSC4CA



[YouTube]

サポセンちゃんねる



はねっと 12

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

特集

あなたの一歩こそまちの宝！
一緒にまちづくりを楽しもう

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

ZINE(ジン)とは

個人やグループが
自由な手法やテーマで
制作した冊子などのこと。



サポセンを
活用した人々から
「私のあしあと」

好きなものを形にする
楽しさを共有したい



ZINEをきっかけに広がった仲間の輪。
ZINEにちなんで、Zのポーズで「ハイチーズ」



ZINEの良さを伝え隊

もりや あさみ

代表 守屋愛咲美さん(活動名:せつこ。)

私は2025年5月からZINEが好きな仲間4人と、仙台でZINEの魅力を伝える活動をしています。同年7月には、自作のZINEやお気に入りのZINEを持ち寄り、語り合う交流イベント「縁and ZINE」を開催しました。17人が集まり、「ずっとZINEについて誰かと語ってみたかった」「ZINEを作ってみたくなった」との声をいただきました。現在、第2回目を計画中です。学生時代から本が好きで、文章を書くのも好きでした。自分でも何か形にしてみたくて、小説執筆に挑戦したこともありましたが、原稿を書き上げる意欲が継続せずに断念。いつしか、何かを形にすることは遠い世界のことのように感じていました。初めてZINEを知ったのは2024年2月。家庭用プリンターで印刷し、ホチキス製本したもので良いという手軽さに惹かれ、自分でも作ってみたくなりました。ちょうどその頃、知り合ったZINE好きな方とZINEを合同制作することになり、私はその中で自分の体験や、普

段思っていることを簡単な文章にしたんです。ZINEなら思い立ったらすぐ形にできる。それがうれしかったですね。また、販売会では自分のZINEを手にとってくれた人と交流できる喜びを知りました。ZINEにまつわるイベントがあれば片っ端から行きたかったので、サポセン主催のZINEづくりイベントにも参加。その時、ZINE即売会で知り合っていた方にも声をかけて一緒に参加しました。今思えば、知り合った仲間やより多くの人と、ZINEの楽しさを共有したい気持ちが動き出していたのだと思います。いろんな人がZINEで気軽に好きなことを表現できたり、即売会で名前も知らない人同士がつながったりする。そんなZINE文化を仙台で育みたいのです。

ZINEの良さを伝え隊

「第2回 縁 and ZINE」開催決定!

日時: 12月7日(日) 13:00～16:00

会場: 仙台市市民活動サポートセンター1階

Instagram▶





特集

協働による活動事例を紹介「ちまたのコラボ」

あなたの一步こそまちの宝！ 一緒にまちづくりを楽しもう

仙台市地下鉄南北線の台原駅と旭ヶ丘駅にまたがる台原森林公園を舞台に、2025年9月、ナゾ解きイベント「ダイノハトレジャーウォーク」が開催されました。主催したのは、地域住民を中心とした有志と一般社団法人ながまちマチキチ（以下、マチキチ）、仙台市の地下鉄沿線まちづくり課（以下、沿線まちづくり課）からなる「プロジェクトダイノハラ」。イベントを企画することを通じて地域づくりの担い手を創出し、台原・旭ヶ丘エリアのさらなる活性化を狙う取り組みをご紹介します。

プロジェクト ダイノハラ

一般社団法人 ながまちマチキチ



みしな まさと
三品 政人さん



さとう ゆいか 佐藤 唯夏さん
やまき あおい 八巻 葵さん
ちば ひろあき 千葉 洸暉さん
うえの あいり 上野 愛莉さん
とよしま あずさ 豊嶋 梓紗さん
こんどう 近藤 くるみさん
こんの めぐみ 今野 愛美さん

仙台市 都市整備局市街地整備部 地下鉄沿線まちづくり課



まるやま そよか
丸山 想世可さん



さとう まさあき
佐藤 正明さん

「ナゾ解き」の冒険に出かけよう！



二次元コード発見！



最も多く金貨を集めた子から順番に景品ゲット！



9月のダイノハトレジャーウォークに参加したのは、台原・旭ヶ丘の住民を中心に、市内から集まった20組50人の親子です。挑戦したミッションは、総面積約60ヘクタールの台原森林公園内に隠された二次元コードを見つけ、読み取った「ナゾ」を解いて金貨の入った宝箱を探し当てること。参加者は公園を駆け回り、金貨の数を競いました。参加者からは「子どもと一緒に楽しめた」「ナゾが解けて気持ち良かった！」などの感想があり大盛況。6月から準備を重ねてきたメンバーの山本さんは「自分が考えた“ナゾ”で、子どもたちが楽しんでくれて良かった」と、胸をなでおろします。

マチキチは、長町を拠点に様々なイベントの企画、コミュニティスペースの運営により、地域内外の人たちの関わりを促すことを通じたまちづくりに取り組んできました。ナゾ解きイベントは、もともとマチキチが長町商店街を舞台に実施してきた人気企画。三品さんは、「台原・旭ヶ丘エリアでも、ナゾ解きイベントを通じて多くの人たちとの関わりが生まれること、地域資源や魅力が再発見されることを期待しています」と話します。

1 ねらい

地域づくりの担い手を探せ！



行政にはない、
マチキチの企画の魅力と運営
ノウハウのおかげで
多くの仲間を集めることが
できました。



沿線まちづくり課は日ごろ、地下鉄東西線、南北線の各駅周辺の町内会や商店街、教育機関などが取り組む地域活動を支援し、沿線地域の活力・魅力向上を目指しています。これまで、太白区八木山や若林区薬師堂などの駅沿線エリアで、地域の人たちと共に様々な賑わいづくりに取り組んできました。沿線まちづくり課にとって台原・旭ヶ丘は、まだ入り込めていないエリアのひとつ。佐藤さんは「まちの賑わい創出には、地域の方々の協力が欠かせませんが、このエリアのキーパーソンや市民団体といった地域人材とのつながりが少なく課題となっていた」と明かします。

解決に向け、沿線まちづくり課は、これまでの支援で関わりのあったマチキチに相談。ナゾ解きイベントの企画運営という機会を呼び水に、一緒に地域づくりの担い手を発掘する協働事業が立ち上がりました。一方、マチキチには、まちづくりの仲間を市内各地に増やしたいという夢がありました。三品さんは「今回の協働事業を通じて、長町で実践してきたまちづくりのノウハウを他地域にも展開し、共に汗する人たちと出会いたい」と期待を膨らませています。



2 ポイント

長い目で見た地域との関係づくり

台原・旭ヶ丘で事業をするにあたり、三品さんは「自分たちのような“よそ者”に対する地域からの反発が心配でした」と振り返ります。しかしプロジェクトメンバーを募集してみると、台原・旭ヶ丘在住者を含む社会人や学生たち5人が「イベントを一からつくってみたい」「地元を盛り上げたい」と参画。そこにマチキチで活動する学生ボランティア3人も加わりました。その後、企画と並行して力を注いだのは、メディアを通じてプロジェクトが立ち上がったことやイベントを企画していることを地域の人たちに発信すること。プロジェクト始動から一ヶ月が過ぎた頃、新聞を見た台原学区民体育振興会から熱烈な連携の申し出を得ることができました。丸山さんは「地元が好きで、盛り上げたいという若者に出会えただけでなく、すでに活動する方々ともつながることができた」と成果を実感しています。

沿線まちづくり課の
お二人が、町内会や
地域活動団体との窓口
にあたる行政担当者と一緒に
訪ね、つないでくれた。
今後の地域連携に向け
心強い存在です。



3 これから

台原・旭ヶ丘を 力づける存在に

今回の「ダイノハトレジャーウォーク」開催は12月13日。プロジェクトメンバーの上野さんは、「実際に広報物を作ったり、広報戦略を練ったり色々な経験ができた。“お手伝い”ではなく自分たちで実践できるのが魅力」と、やりがい話します。豊嶋さんは「第1回目は三品さんに先導してもらい、どんな準備が必要か分かってきた。もっと企画に磨きをかけて、台原を盛り上げる恒例イベントにしていきたい」と、力を込めます。生まれたばかりのプロジェクトダイノハラの存在が、地域の人たちの力を集結させ、台原・旭ヶ丘を活性化させつつあります。



プロジェクト ダイノハラ

12月の開催情報はこちら



▲note



▲Instagram

